

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	大村 佳代	指導教員 (主査)	堤 千鶴子

論文題目	病棟看護師と訪問看護師の協働による在宅酸素療法 (HOT) の受容への支援 —看護を継続するためのカンファレンスを中心に—
------	--

## 本文概要

### 【目的】

病棟看護師と訪問看護師が行う HOT の受容を促進する看護と退院前カンファレンスの現状を明らかにし、それぞれの共通性や違いから HOT 受容のために有効な退院前カンファレンスへの示唆を得る。

### 【方法】

郵送による無記名自記式質問紙調査。調査内容①対象者の属性、②HOT の看護、③HOT の退院前カンファレンスについて、文献を基に質問項目を作成した。回答理由記述欄を設けた。分析は SPSS を用い、統計的分析を行った。対象は病棟看護師 287 名、訪問看護師 218 名。

### 【結果】

回収、病棟看護師 108 人 (回収率 38%) 訪問看護師 119 人 (回収率 55%)。基本属性では看護師経験年数、呼吸器疾患を扱う病棟の経験年数は、訪問看護師の方が有意に長かった。HOT の受容を促進する看護の自作尺度で因子分析を行い、第 1 因子「HOT の使用・管理」第 2 因子「HOT を生活に取り入れる」第 3 因子「自己効力感」の 3 つの因子が抽出された。病棟看護師と訪問看護師の得点を比較すると尺度全体、第 2 因子と第 3 因子で、訪問看護師の平均ランクが有意に高くなった。退院前カンファレンスでは自己中断について話した方が良いと思っているが話していない看護師が多かった。病棟看護師では、HOT の退院支援について、受講経験がある者がいない者と比較し、第 2 因子と第 3 因子の得点が高かった。

### 【考察】

退院前カンファレンスでは、訪問看護師は「ケアの継続のためのアセスメントプロセス (樽谷、2015)」があり、本人を交えて [自己中断の原因] について対策することが HOT の受容に対して有効であることが示唆された。結果より、病棟看護師は訪問看護師に比べ HOT の受容を促進するための看護を行っておらず、経験の差が看護の差として現れる事が考察された。訪問看護師と病棟看護師の情報共有の場を設けることは病棟看護師において、在宅生活への理解を深める機会となる。さらに、病棟看護師が研修を受講することについて患者の思いや生活を知ることによって「自己の患者教育が不足していたことに気づくことができたとも考えられる (高濱、2012)」効果があり、病棟看護師に不足した経験を補い、看護につなげるために有効であることが考察された。

### 【結論】

HOT を継続するために、退院前カンファレンスの場を活用し「自己中断の原因」について本人を交えて対策を話し合うことが必要である。さらに、確実な情報共有のために、訪問看護師との情報交換の場を退院前カンファレンスの前後に設けることが有効である。退院前カンファレンスで患者が HOT を継続するための協働を効果的に行うために、病棟看護師が患者の入院中とは異なる在宅での生活の実際を訪問看護師と情報共有することや研修を受講することが有効である。

キーワード：在宅酸素療法の受容、協働、退院前カンファレンス